
メール DE バッカー 取扱説明書

Ver1.10
Kyuseal Corporation
2004.9.17

www.kyuseal.com

目次

1. 概要	3
ソフトウェアの動作の流れ	4
2. パソコンの設定	5
a. リモートパソコン設定.....	5
モデムのインストール.....	5
ダイヤルアップ接続の作成	6
リモートデスクトップの許可	12
b. クライアントパソコン設定.....	13
モデムのインストール.....	13
着信接続の設定.....	14
設定の確認.....	17
3. ソフトウェアのインストールと設定.....	20
インストール	20
設定.....	21
4. 実行.....	24
APPENDIX A Netmeeting によるリモートデスクトップ接続.....	26
インストール	26
接続.....	29
APPENDIX B その他共有ソフトについて	32
最後に	32

1. 概要

このソフトウェアでは携帯電話等からの電子メールをトリガとする事により、このソフトウェアを実行しているパソコンの方から、外出先のパソコンへダイヤルアップ接続を行い、データ通信を開始する事ができます。

このソフトによって次のことができます。

- ・ 外出先からリモートデスクトップ(注 1)や NetMeeting などのリモートソフトを使用して、自宅や会社のパソコンをリモート操作できます。
- ・ Softether(注2)などを使用することにより、自宅や会社のパソコンおよび社内 LAN と LAN 接続をすることができます。このソフトにより、外出先のパソコンからインターネットにアクセスすることもできます。
- ・ 自宅や会社のパソコンのほうからダイヤルアップすることにより、自宅や会社のパソコン専用のデータ通信用電話番号を準備する必要がありません。

注1:Windows XP Professional ではリモートデスクトップと呼ばれる機能が準備されています。

(クライアントパソコンは XP Home,2000,NT,Me,98 でもかまいません。)

Windows XP Home、2000、Me、NT、98では Netmeeting にリモートデスクトップ共有機能という名称で同等機能があります。

注2:SoftEther はフリーの仮想ネットワーク(VPN)ソフトで、容易に外出先のパソコンと自宅や会社のパソコンやネットワークの間に LAN 接続を構築することができます。

(<http://www.softether.com>)

用語の解説

ここでは説明の便宜上、次のように用語を規定しています。

リモートパソコン:リモートデスクトップでコントロールされるパソコンです。(自宅や会社のパソコン)
メール DE バッカーが動作しており、メールを受信するとクライアントパソコンへダイヤルアップ接続を行います。

クライアントパソコン:リモートパソコンをコントロールするパソコンです。(外出先のパソコン)

リモートパソコンからダイヤルアップ接続された後、リモートデスクトップ機能を用いてリモートパソコンをコントロールします。

ソフトウェアの動作の流れ

図 1-1 にこのソフトウェアの動作の流れを示します。

開始電子メールを携帯電話などから送信します。開始電子メールの条件としては送信先、送信者、件名が本ソフトウェアに登録する内容と一致している必要があります。

メール DE バッカー (本ソフトウェア) が、設定されたメールサーバーを定期的にチェックします。

メールサーバーをチェックしていて接続開始メールを受信したと判断したとき自動的にダイヤルアップ接続を起動してクライアントパソコンにダイヤルアップ接続を開始します。

ダイヤルアップ接続後、リモートデスクトップ (又は Netmeeting) を用いてクライアントパソコンはリモートパソコンをリモートコントロールする事ができます。

注意: SoftEther (www.softether.com) などのソフトを用いるとクライアントパソコンからリモートパソコンを経由してインターネットを閲覧することも可能ですが、この場合クライアントパソコンとリモートパソコンを接続しているモデムで通信速度が遅くなることが多いので、上記リモートコントロールソフトの使用をお勧めします。(softether 等を使用した接続方法はホームページをご確認ください。 <http://www.kyuseal.com>)

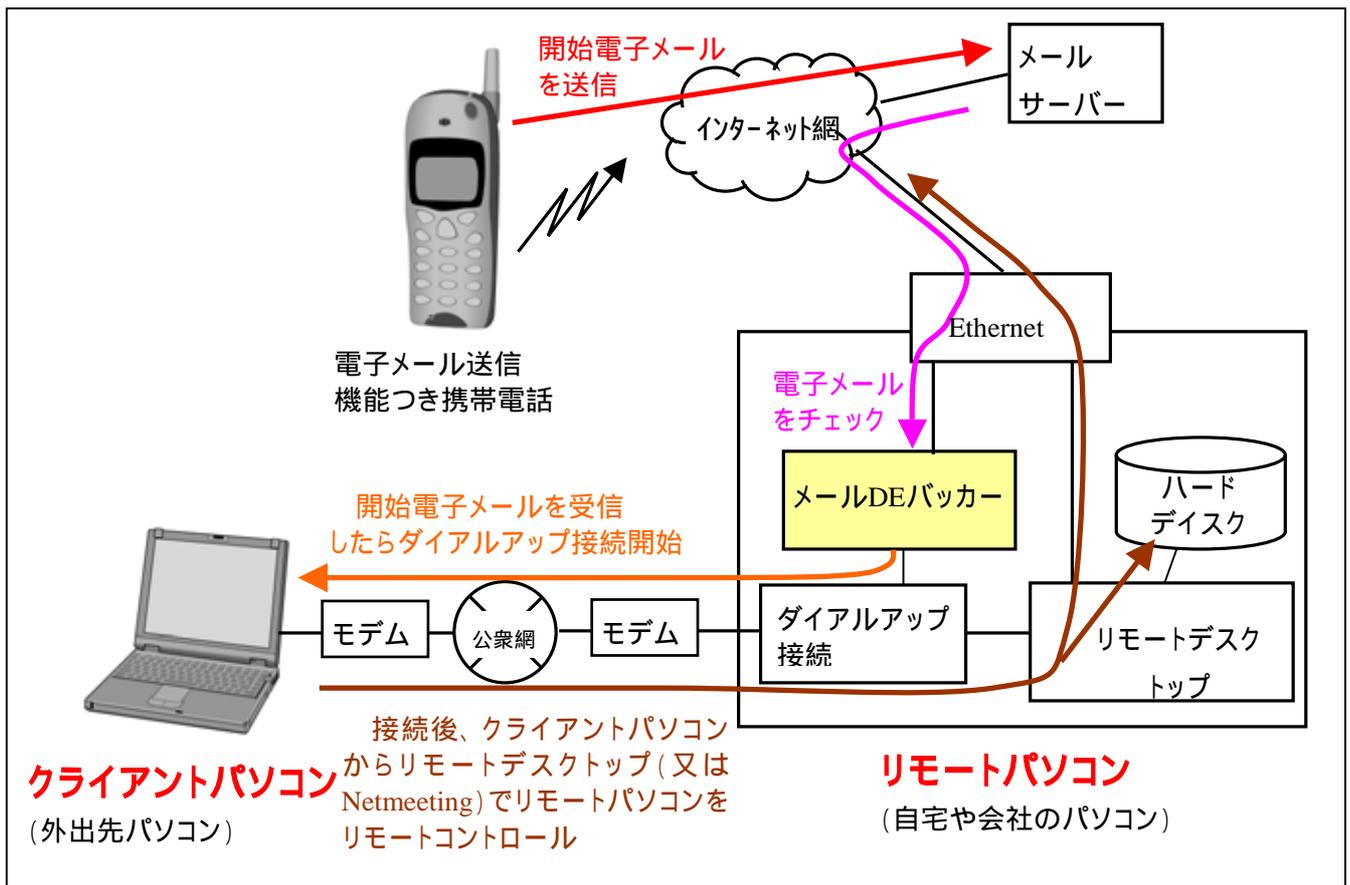


図 1-1 このソフトウェアの動作の流れ

2. パソコンの設定

このソフトウェアを動作させる前に、リモートパソコンがクライアントパソコンへダイヤルアップ接続できるよう設定する必要があります。以下の説明ではWindowsXP Professionalでリモートデスクトップを使用する場合の設定例を示します。Netmeetingのリモートデスクトップ共有を使用される場合は APPENDIX A をご覧ください。

リモートデスクトップの説明についてはマイクロソフトホームページをご覧ください。

<http://www.microsoft.com/japan/windowsxp/pro/business/enduser/design1.asp>

a. リモートパソコン設定

モデムのインストール

モデムがインストールされていない場合は、まずモデムをインストールする必要があります。WindowsXPでは多くの場合、モデムの電源を入れた状態でパソコンを立ち上げると自動的にモデムを認識してインストールが完了します。

「スタート」 「コントロールパネル」 「プリンタとその他のハードウェア」 「電話とモデムのオプション」を選択し、モデムのタブをクリックして正常にインストールされているか確認します。

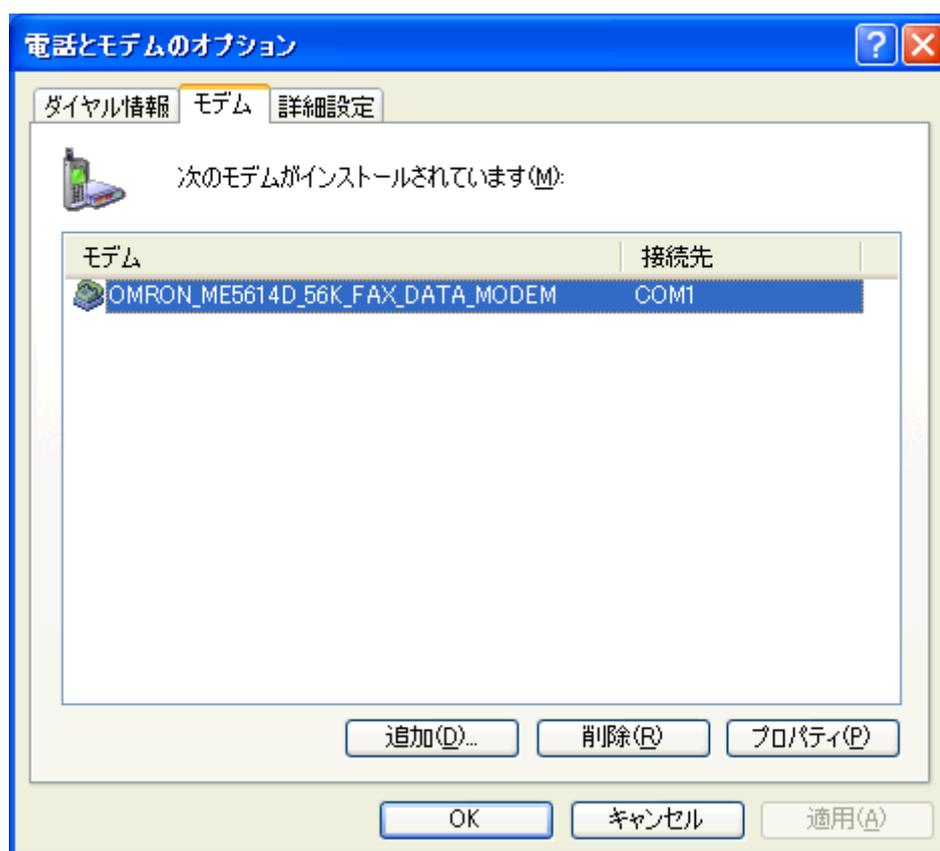


図 2-1 モデムのインストール

正常にインストールされていない場合は「ハードウェアの追加」でインストールするかモデムメーカーの取扱説明書にしたがってインストールしてください。

ダイヤルアップ接続の作成

コントロールパネルから「ネットワークとインターネット接続 > ネットワーク接続」をクリックします。
次に「新しい接続を作成する」をクリックします。

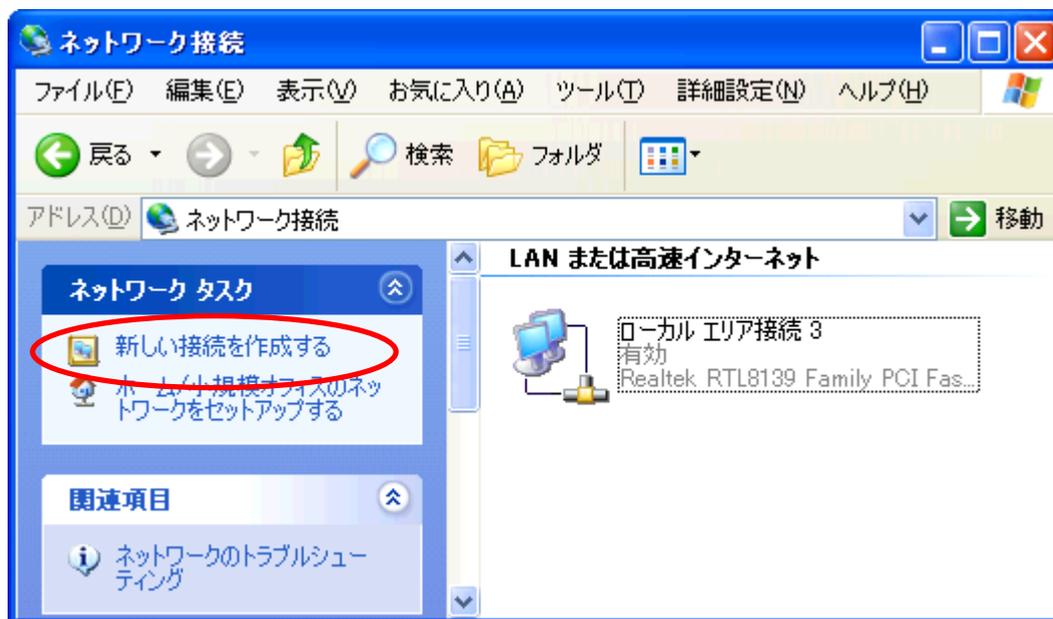


図 2-2 ネットワーク接続

次に「インターネットに接続する」を選択します。

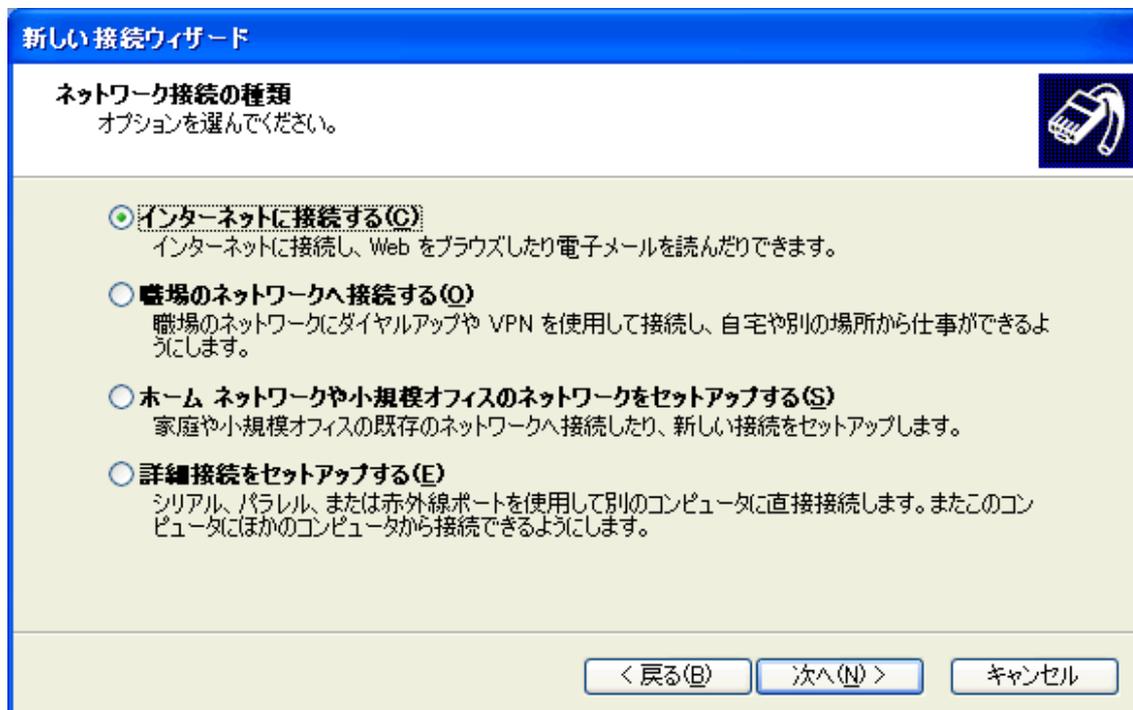


図 2-3 ネットワーク接続の種類

図 2-4「準備」ウインドウで「接続を手動でセットアップする」を選択します。

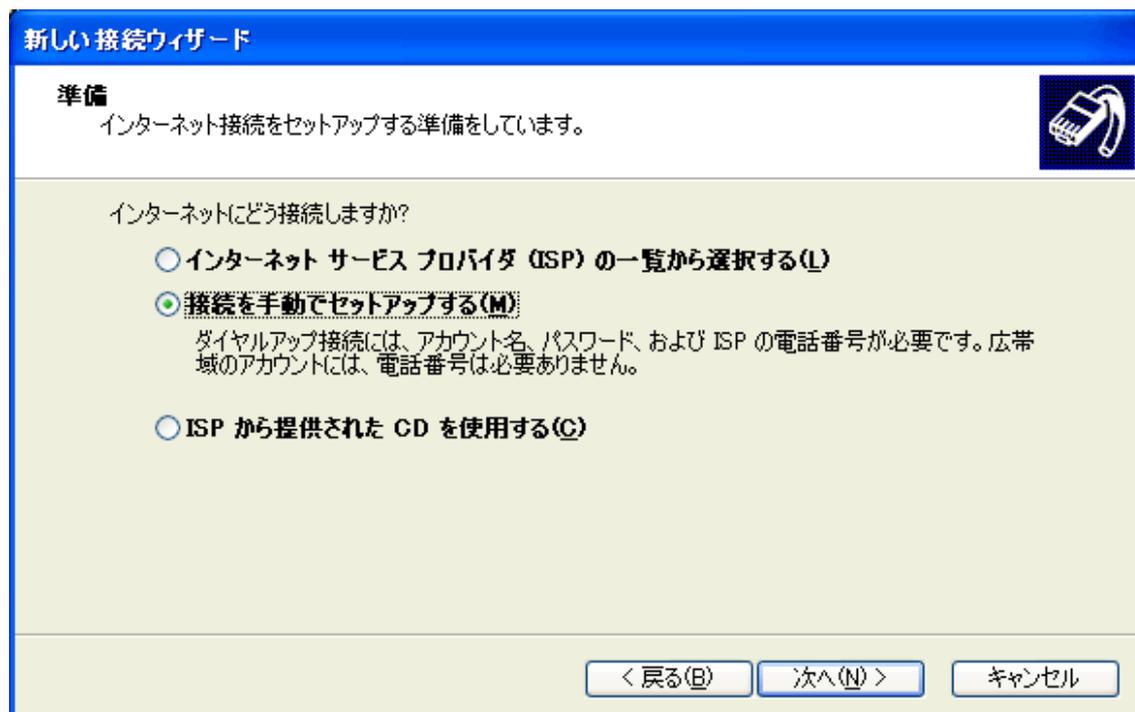


図 2-4 準備

図 2-5「インターネット接続」ウインドウで「ダイヤルアップモデムを使用して接続する」を選択します。

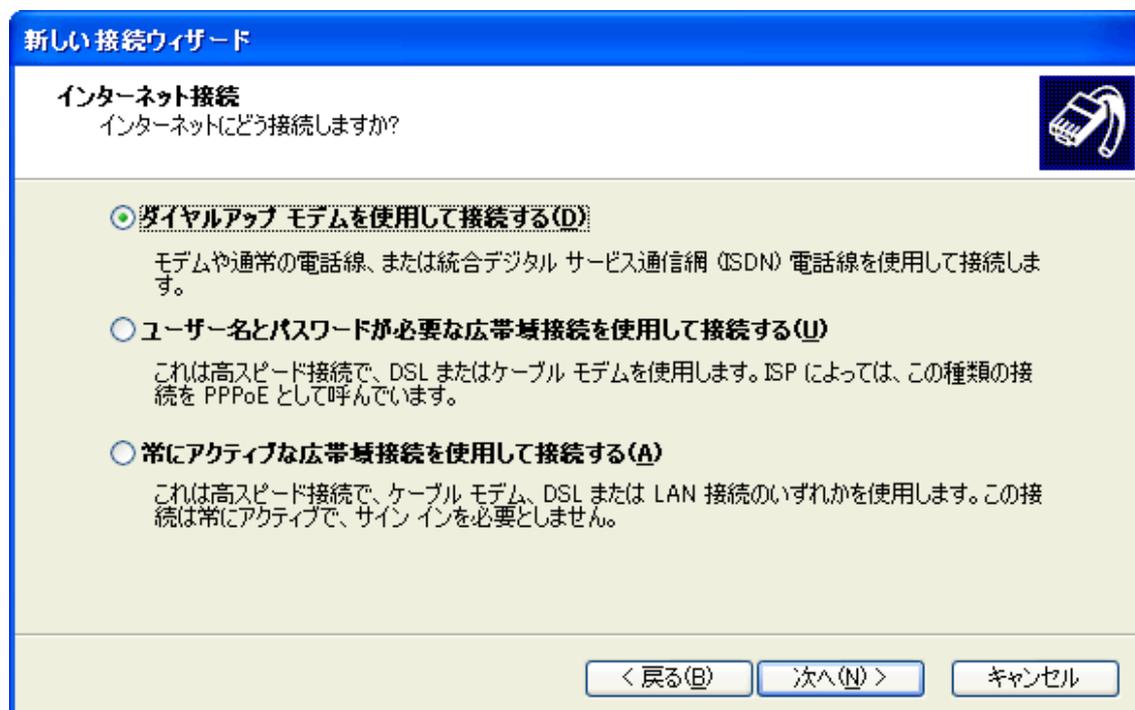
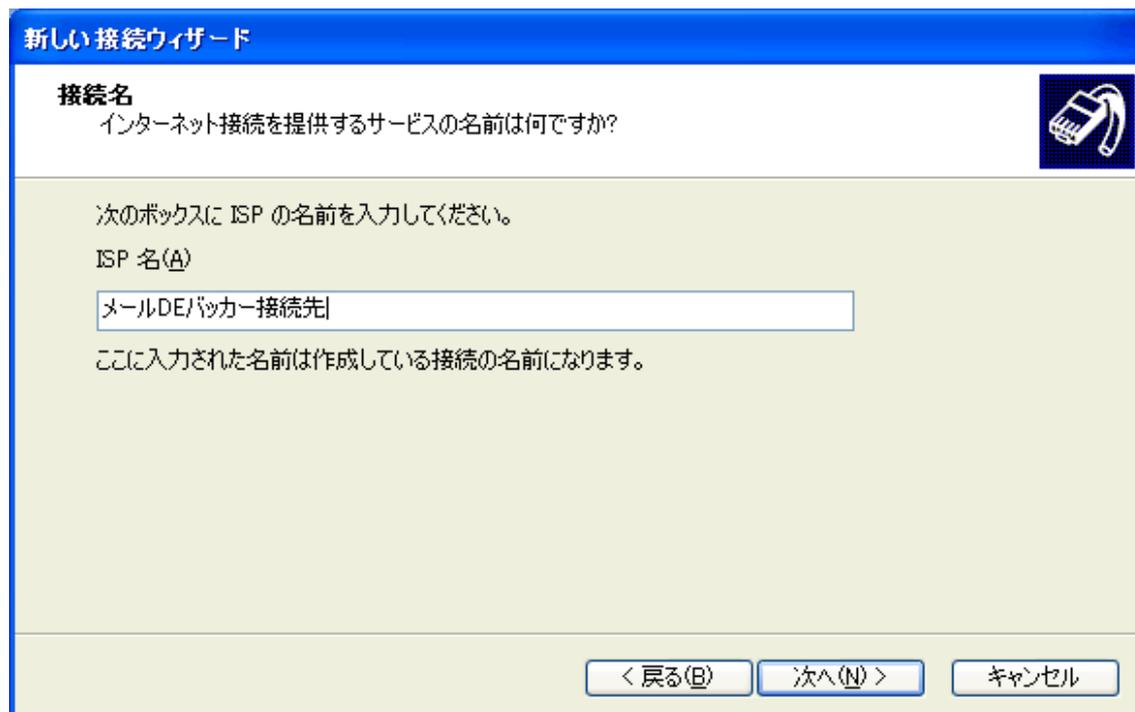


図 2-5 インターネット接続

図 2-6「接続名」ウインドウで適当な名前を設定します。ここでは「メール DE バッカー接続先」としています。

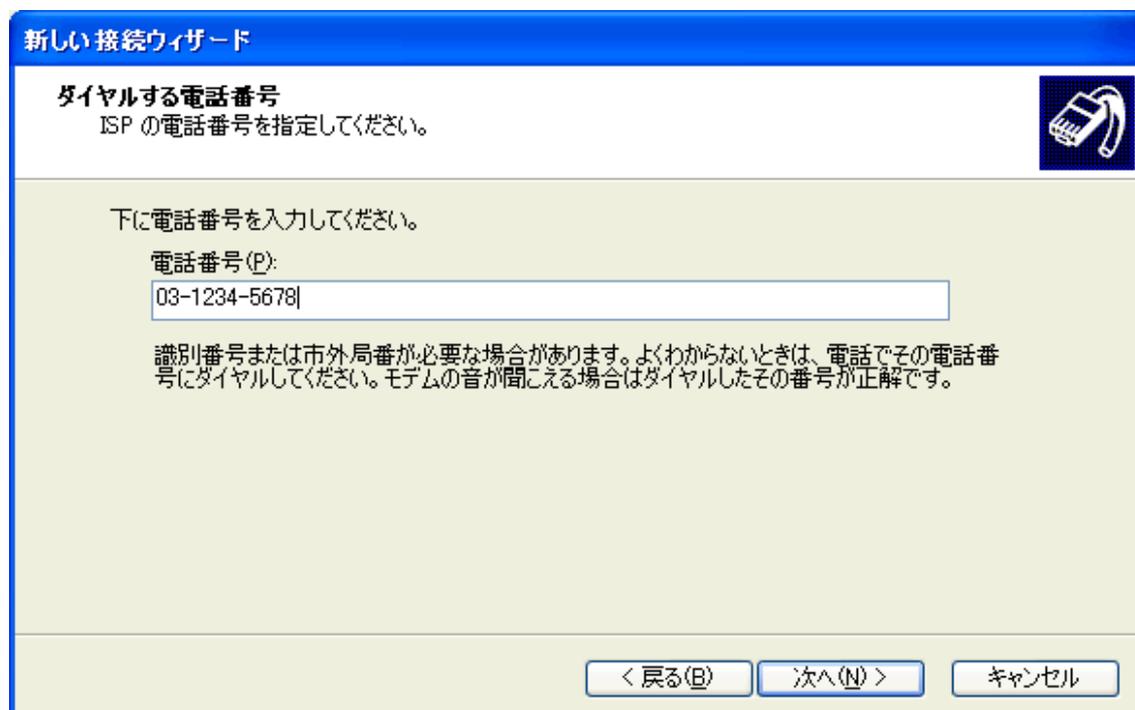


The screenshot shows a Windows-style dialog box titled "新しい接続ウィザード" (New Connection Wizard). The main heading is "接続名" (Connection Name) with the question "インターネット接続を提供するサービスの名前は何ですか?" (What is the name of the service that provides Internet access?). Below this, it says "次のボックスに ISP の名前を入力してください。" (Enter the ISP name in the box below). The label "ISP 名(A)" is followed by a text input field containing "メールDEバッカー接続先". A note below the field states "ここに入力された名前は作成している接続の名前になります。" (The name entered here will be the name of the connection being created). At the bottom, there are three buttons: "< 戻る(B)" (Back), "次へ(N) >" (Next), and "キャンセル" (Cancel). A modem icon is in the top right corner.

図 2-6 接続名

図 2-7「ダイヤルする電話番号」ウインドウで相手先電話番号を設定します。

この例では「03 - 1234 - 5678」を設定します。



The screenshot shows the same "新しい接続ウィザード" dialog box, but at the "ダイヤルする電話番号" (Phone Number to Dial) step. The question is "ISP の電話番号を指定してください。" (Specify the ISP's phone number). It says "下に電話番号を入力してください。" (Enter the phone number below). The label "電話番号(P):" is followed by a text input field containing "03-1234-5678". A note below the field states "識別番号または市外局番が必要な場合があります。よくわからないときは、電話でその電話番号にダイヤルしてください。モデムの音が聞こえる場合はダイヤルしたその番号が正解です。" (An area code or long distance code may be required. If you are unsure, dial the number by phone. If you hear the modem's sound, the number you dialed is correct). At the bottom, there are three buttons: "< 戻る(B)" (Back), "次へ(N) >" (Next), and "キャンセル" (Cancel). A modem icon is in the top right corner.

図 2-7 ダイヤルする電話番号

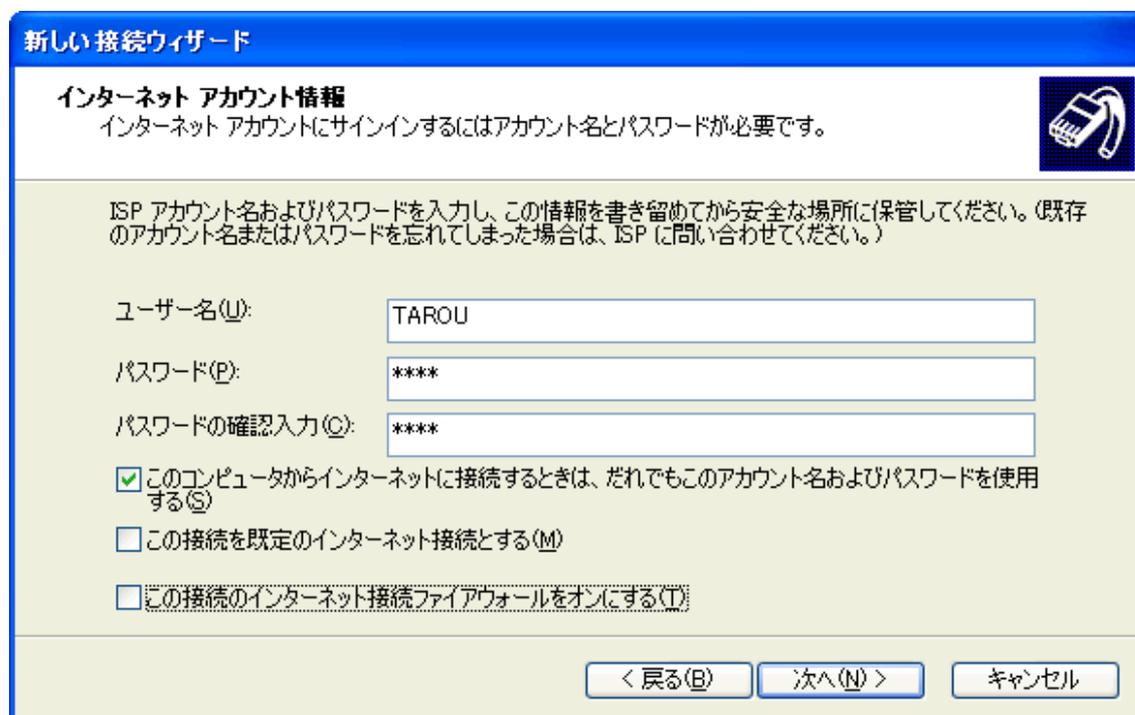
図 2-8 で「インターネットアカウント情報」を設定します。

この例では「ユーザー名」は「TAROU」、パスワードは「1234」を設定しています。

このユーザー名とパスワードは、クライアントパソコンのログインユーザー名及びパスワードと一致していません。

「この接続を既定のインターネット接続とする」のチェックをはずします。

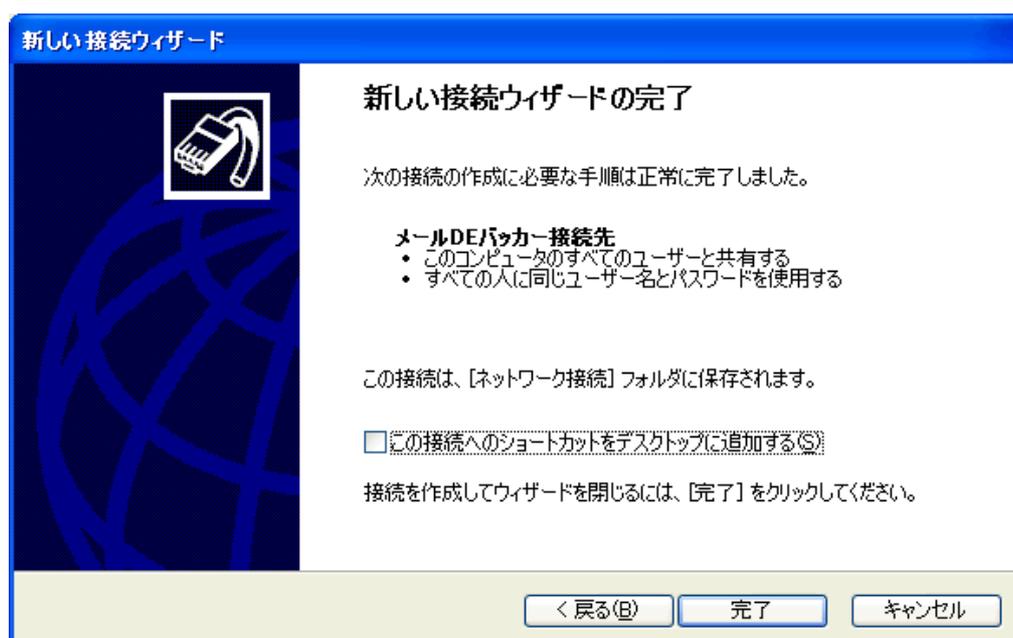
「この接続のインターネット接続ファイアウォールをオンにする」のチェックもはずします。



The screenshot shows a Windows-style dialog box titled "新しい接続ウィザード" (New Connection Wizard). The main heading is "インターネット アカウント情報" (Internet Account Information). Below the heading, it says "インターネット アカウントにサインするにはアカウント名とパスワードが必要です。" (To sign in to an Internet account, you need an account name and password.) There is a small icon of a hand holding a device. The main area contains instructions: "ISP アカウント名およびパスワードを入力し、この情報を書き留めてから安全な場所に保管してください。(既存のアカウント名またはパスワードを忘れてしまった場合は、ISP に問い合わせてください。)" (Enter your ISP account name and password, save this information, and store it in a safe place. (If you forget your existing account name or password, contact your ISP.)) Below this are three input fields: "ユーザー名(U):" with "TAROU", "パスワード(P):" with "****", and "パスワードの確認入力(C):" with "****". There are three checkboxes: the first is checked and labeled "このコンピュータからインターネットに接続するときは、だれでもこのアカウント名およびパスワードを使用する(S)" (When connecting to the Internet from this computer, allow anyone to use this account name and password (S)); the second is unchecked and labeled "この接続を既定のインターネット接続とする(M)" (Make this connection the default Internet connection (M)); the third is unchecked and labeled "この接続のインターネット接続ファイアウォールをオンにする(T)" (Turn on the Internet connection firewall for this connection (T)). At the bottom are three buttons: "< 戻る(B)" (Back), "次へ(N) >" (Next), and "キャンセル" (Cancel).

図 2-8 インターネットアカウント情報

「新しい接続ウィザードの完了」ウィンドウで「完了」をクリックして終了します。



The screenshot shows the "新しい接続ウィザード" (New Connection Wizard) dialog box at the "完了" (Completed) step. The title bar is "新しい接続ウィザード". On the left is a large blue globe icon. The main heading is "新しい接続ウィザードの完了" (New Connection Wizard Completed). Below the heading, it says "次の接続の作成に必要な手順は正常に完了しました。" (The steps required to create the next connection have been completed normally.) There is a sub-heading "メールDEバックアップ接続先" (Mail DE Backup Connection Destination) followed by two bullet points: "このコンピュータのすべてのユーザーと共有する" (Share with all users on this computer) and "すべての人に同じユーザー名とパスワードを使用する" (Use the same user name and password for everyone). Below this, it says "この接続は、[ネットワーク接続] フォルダに保存されます。" (This connection will be saved in the [Network Connections] folder.) There is one checkbox: "この接続へのショートカットをデスクトップに追加する(S)" (Add a shortcut to this connection to the desktop (S)). At the bottom, it says "接続を作成してウィザードを開じるには、[完了] をクリックしてください。" (To create the connection and open the wizard, click [Completed].) At the bottom are three buttons: "< 戻る(B)" (Back), "完了" (Completed), and "キャンセル" (Cancel).

図 2-9 新しい接続ウィザードの完了

- ・ 接続先のブロック

ダイヤルアップモデムによる接続が接続状態では、パケットは LAN よりダイヤルアップモデムの接続の方へ流れてしまいます。したがって以下のような手順を使用して、パケットがダイヤルアップモデム接続に流れないようにします。「接続」 「メールDEバッカー接続先」を選択します。すると図 2-10 のウィンドウが現れます。「プロパティ」をクリックします。

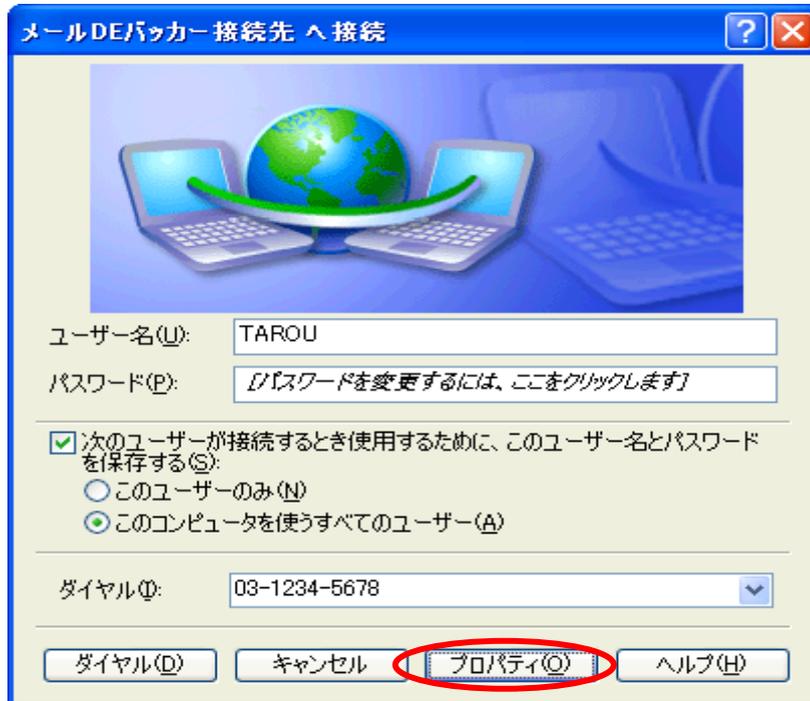


図 2-10 ダイヤルアップ接続

「ネットワーク」のタブをクリックし、「インターネットプロトコル(TCP/IP)」にフォーカスを合わせて「プロパティ」をクリックします。

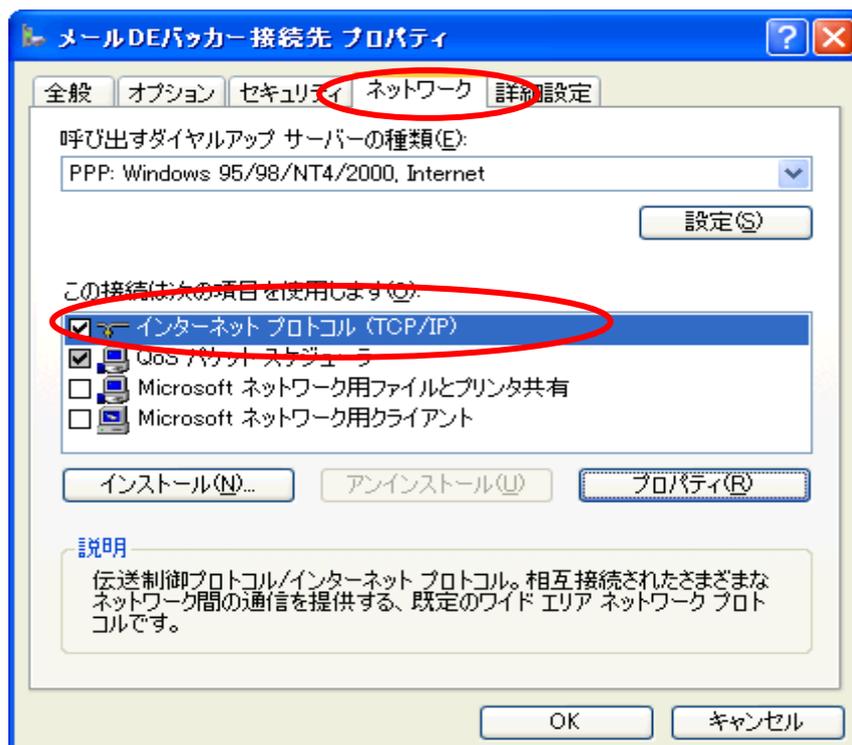


図 2-11 TCP/IP プロパティ

図 2-12 のウィンドウにおいてリモートパソコンに割り当てる IP アドレスを設定します。この例では 192.168.1.100 としていますが他の機器とぶつかる場合は適宜適当な IP アドレスを設定してください。

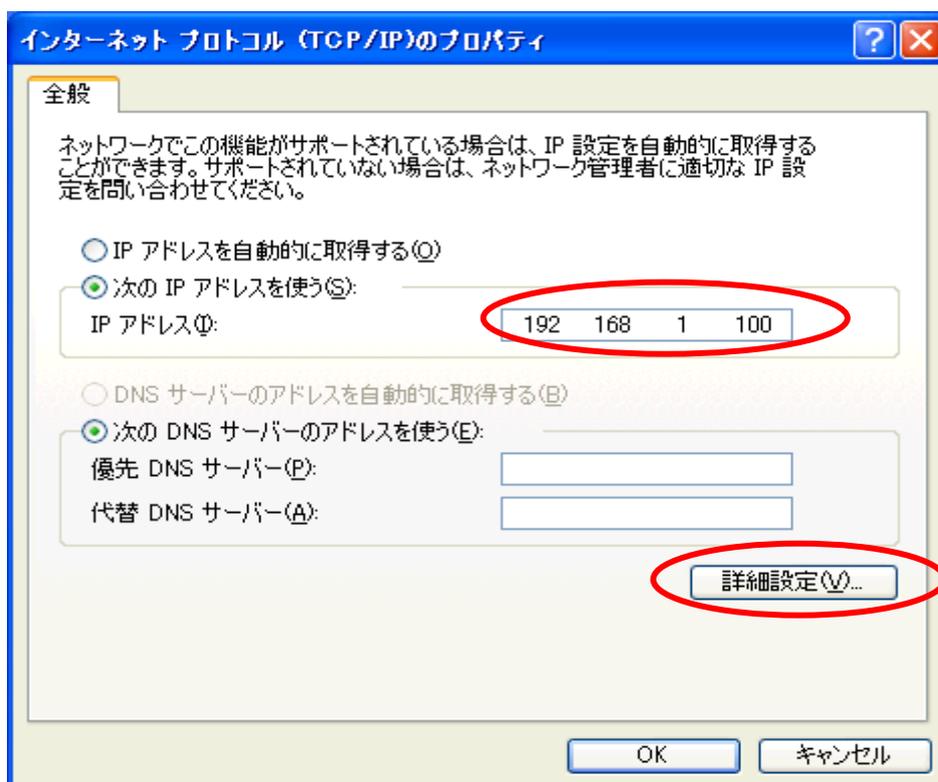


図 2-12 IP アドレス設定

次に「詳細設定」をクリックします。

図 2-13 の「リモートネットワークでデフォルトゲートウェイを使う」のクリックをはずします。

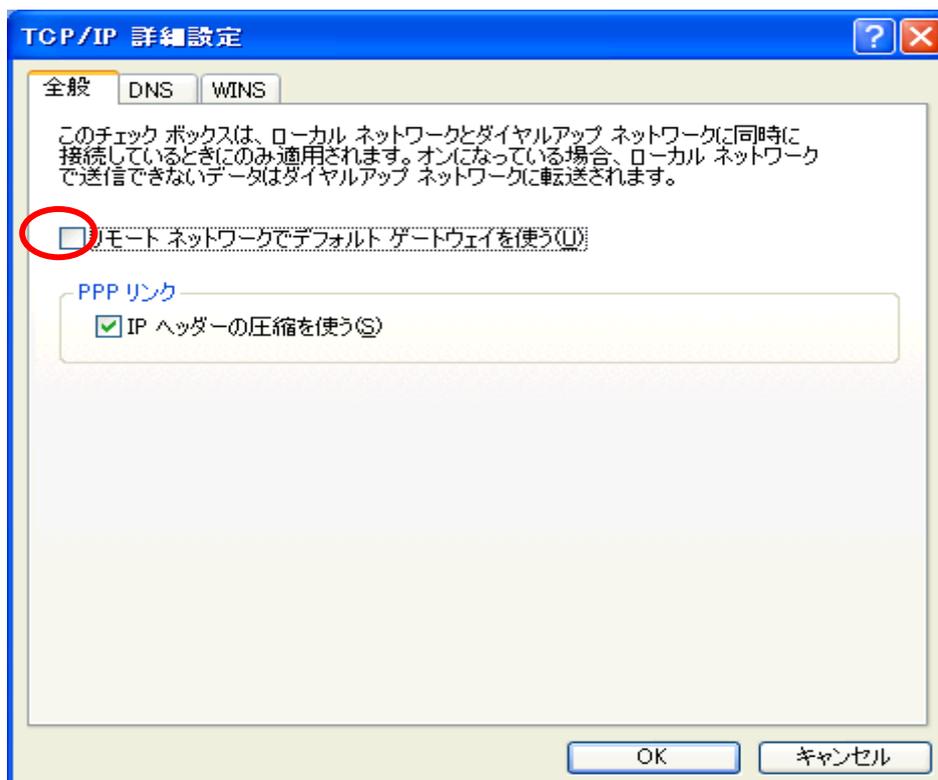


図 2-13 TCP/IP 詳細設定

リモートデスクトップの許可

通常モデムによる接続の場合、ADSLなどと違ってせいぜい数十 Kbps の通信速度しかありません。またメールや、ブラウザなどをすべて設定しなおすのは大変です。

そこでリモートデスクトップを使用します。この機能は、リモートで他のパソコンにログインし、そのパソコンをあたかも目の前にあるパソコンのようにリモートで操作できます。この機能は WindowsXP プロフェッショナルで使用可能です。詳細はマイクロソフトのホームページをご覧ください。

<http://www.microsoft.com/japan/windowsxp/pro/business/enduser/design1.asp>

なおクライアントパソコン側の端末は Windows98,Me、NT、2000、XP で可能です。

マイコンピュターで右クリックします。

システムのプロパティウインドウが出ますから、「リモート」タブをクリックします。

「このコンピュータにユーザーがリモートで接続することを許可する」をクリックします。

以上でリモート接続ができる状況になります。

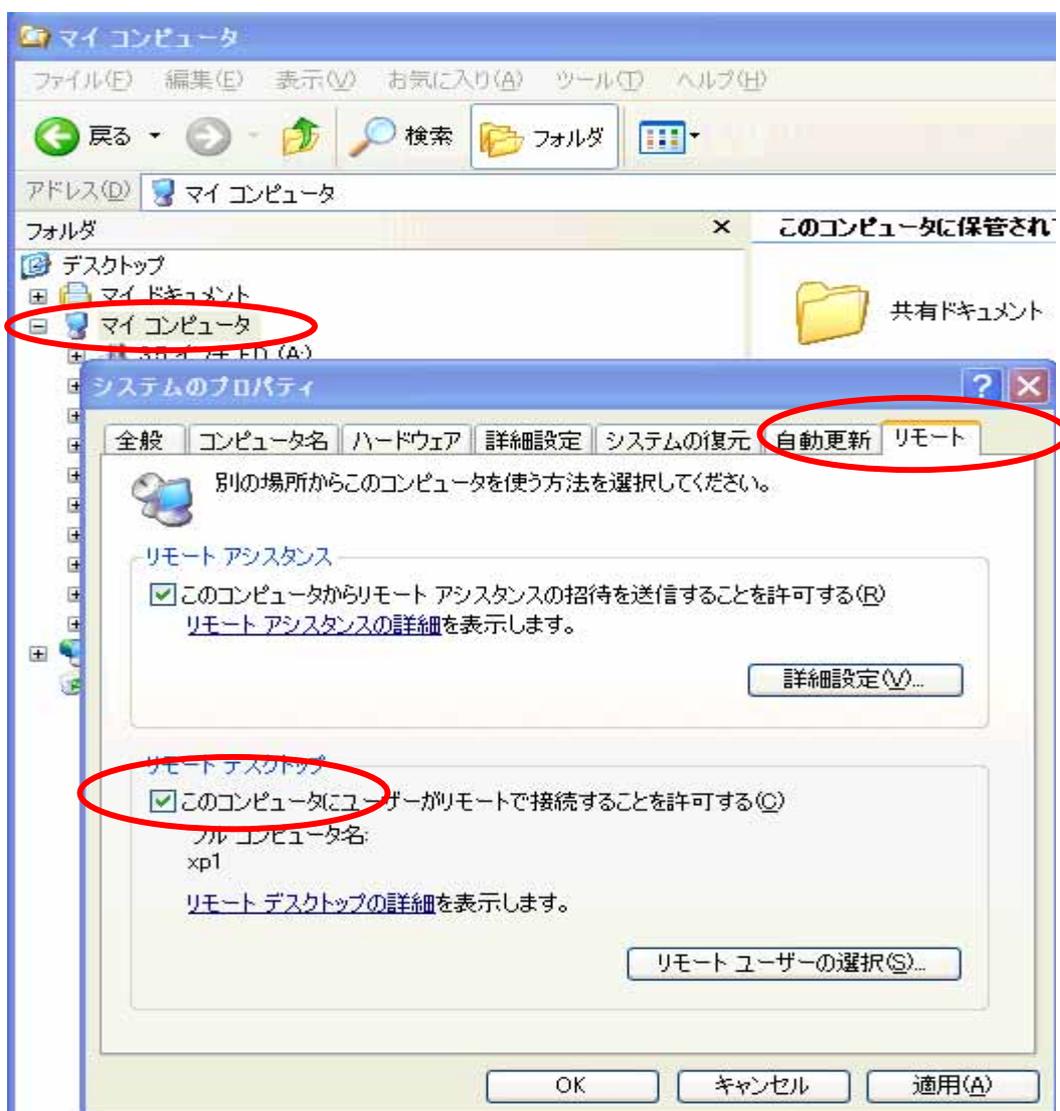


図 2-14 マイコンピュターのリモートプロパティ

b. クライアントパソコン設定

モデムのインストール

モデムがインストールされていない場合は、まずモデムをインストールする必要があります。WindowsXP では多くの場合、モデムの電源を入れた状態でパソコンを立ち上げると自動的にモデムを認識してインストールが完了します。

「スタート」「コントロールパネル」「プリンタとその他のハードウェア」「電話とモデムのオプション」を選択し、モデムのタブをクリックして正常にインストールされているか確認します。

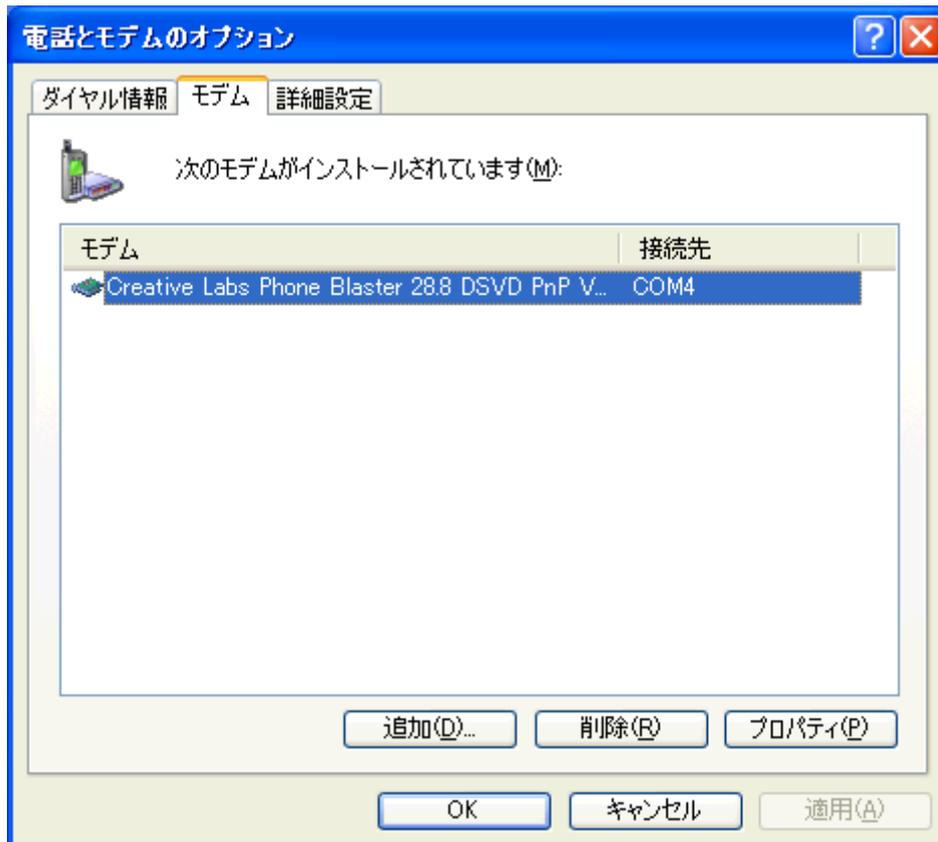


図 2-15 モデム設定

正常にインストールされていない場合は「ハードウェアの追加」でインストールするかモデムメーカーの取扱説明書にしたがってインストールしてください。

着信接続の設定

コントロールパネルから「ネットワークとインターネット接続 ネットワーク接続」をクリックします。
次に「新しい接続を作成する」をクリックします。

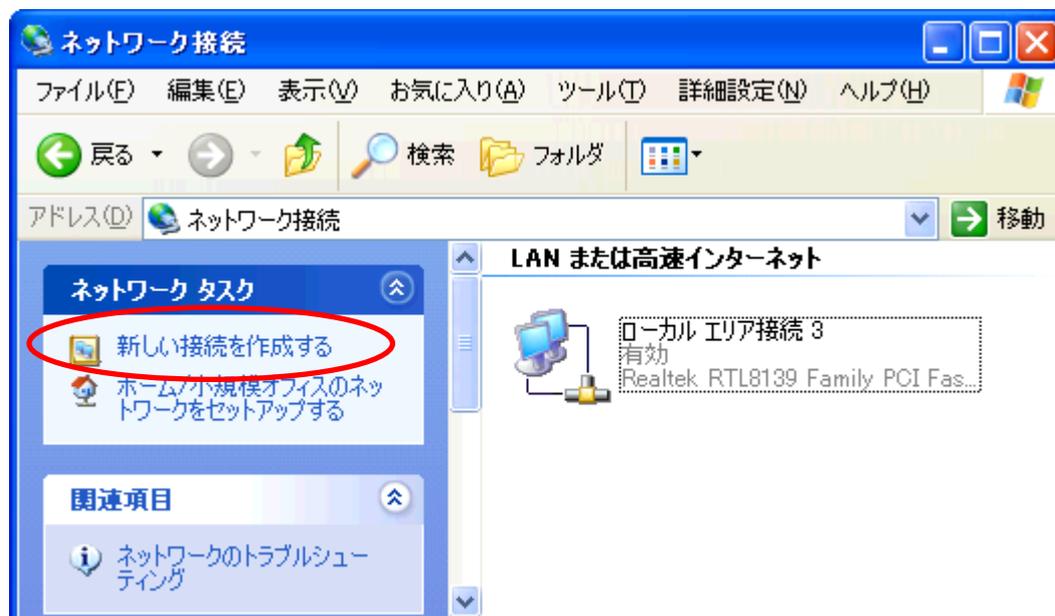


図 2-16 ネットワーク接続

図 2-17 ネットワーク接続の種類ウインドウで「詳細接続をセットアップする」を選択します。

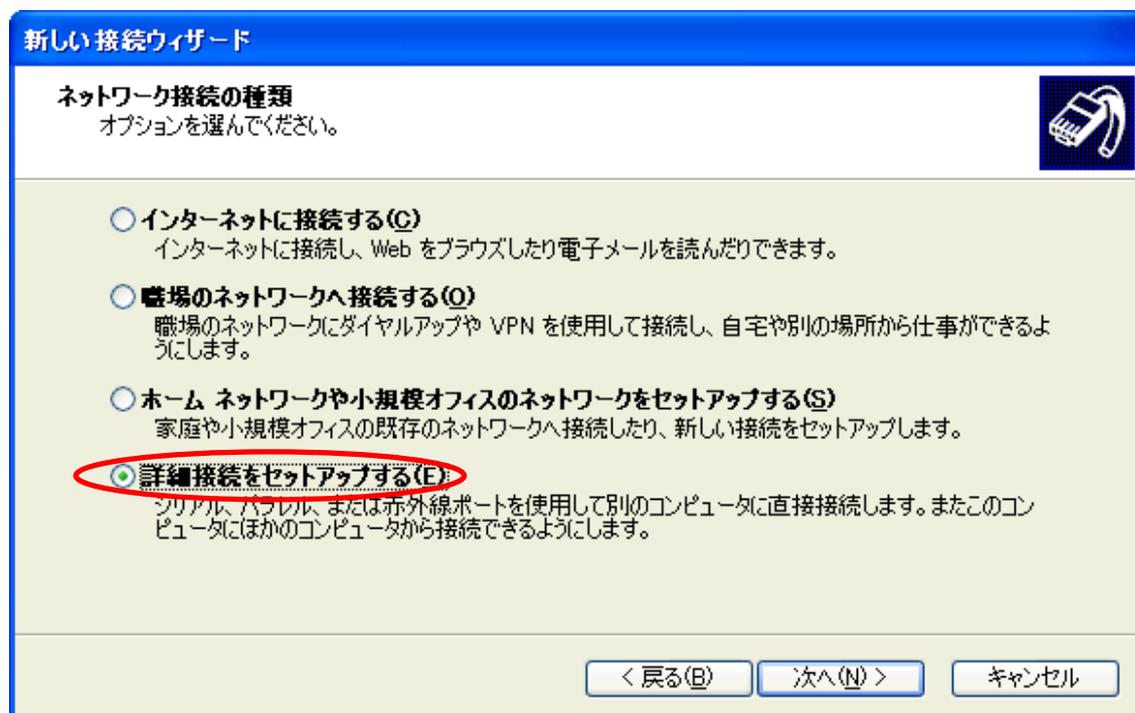


図 2-17 ネットワーク接続の種類

図 2-18 「接続の詳細オプション」ウインドウで「着信接続を受け付ける」を選択します。

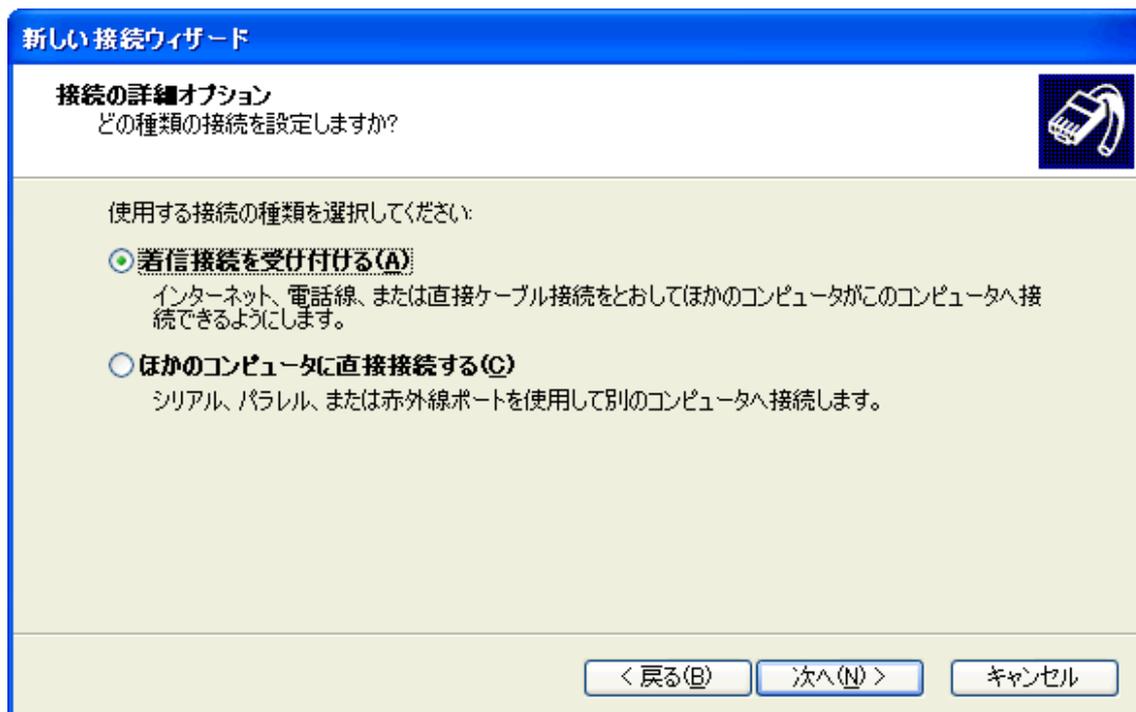


図 2-18 接続の詳細オプション

図 2-19 「着信接続に使うデバイス」ウインドウで接続デバイス(モデム)を選択します。

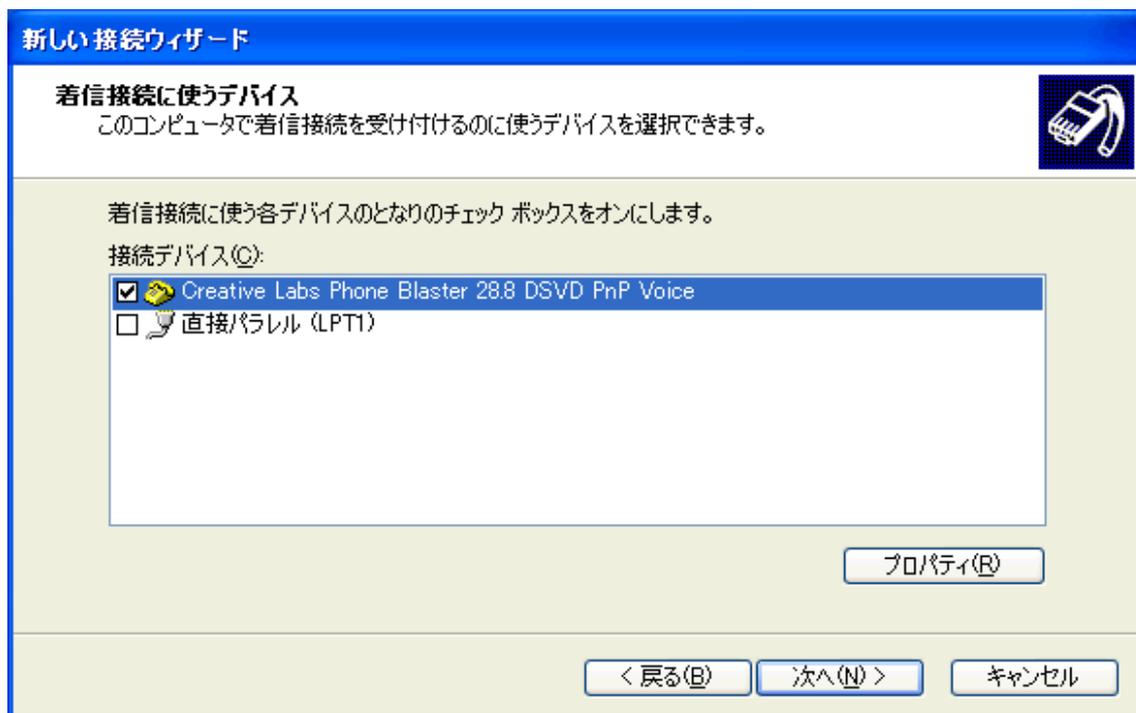


図 2-19 着信接続に使うデバイス

「着信した仮想プライベートネットワーク (VPN) 接続」ウィンドウで仮想プライベート接続を許可するかどうかを設定します。インターネット接続する場合は許可してください。

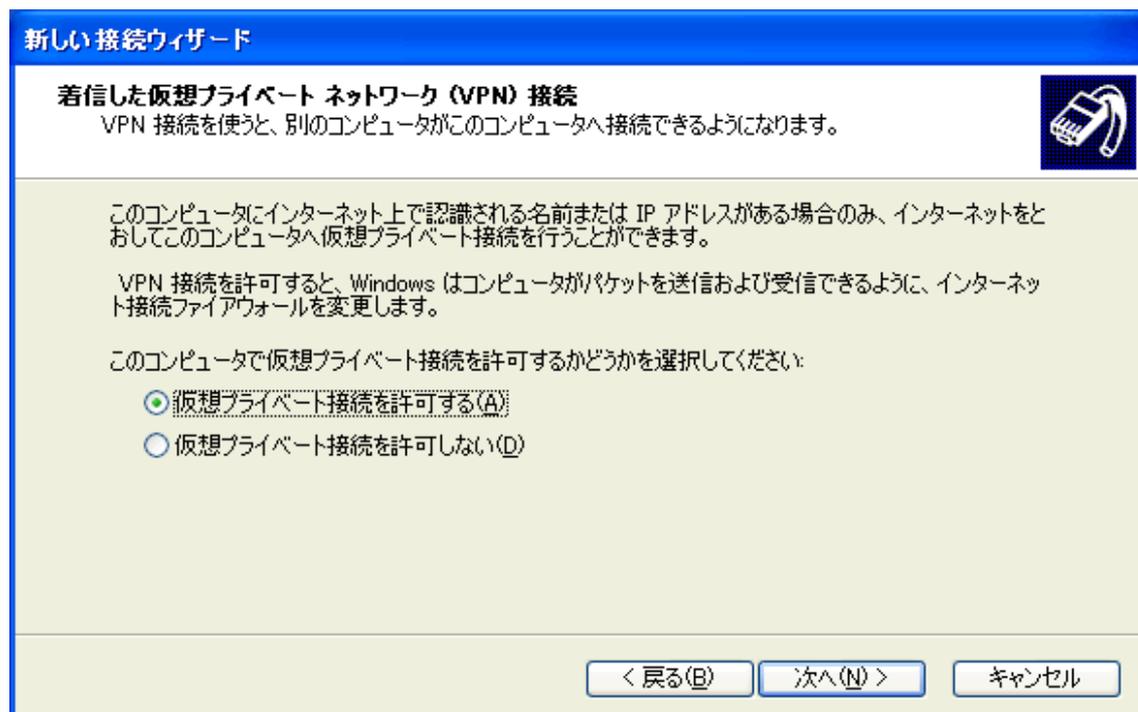


図 2-20 着信した仮想プライベートネットワーク (VPN) 接続

「ユーザーの許可」ウィンドウで着信を許可するユーザーを選択します。このユーザーはリモートパソコンのダイヤルアップ接続のインターネットアカウント情報(図 2-8)と一致していなければなりません。

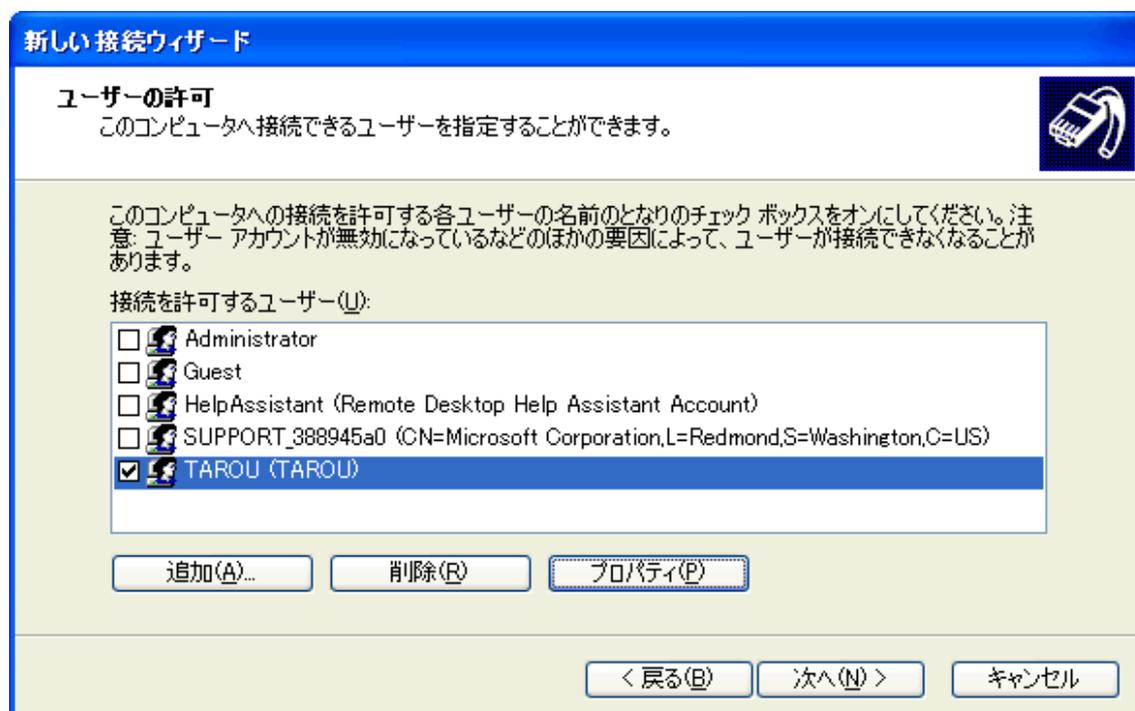


図 2-21 ユーザーの許可

「新しい接続ウィザードの完了」ウィンドウで「完了」をクリックして設定を終了します。

設定の確認

次に実際に動作させて、接続できるかどうかテストします。テストについては2段階で行います。

リモートパソコンからクライアントパソコンへダイヤルアップ接続します。

クライアントパソコンからリモートパソコンをリモートデスクトップ接続でリモート操作します。

最初にリモートパソコンからクライアントパソコンへダイヤルアップ接続します

リモートパソコンでの操作

「接続」 「メール DE バッカー接続先」を選択します。すると図 2-22 のウィンドウが表示されます。

ここで「ダイヤル」のボタンをクリックします。



図 2-22 ダイヤルアップ接続

正常にダイヤルアップ接続したら、クライアントパソコンから今度はリモートデスクトップでリモートパソコンをリモートコントロールします。(Netmeetingを使用する場合は APPENDIX A をご覧ください。)

クライアントパソコンでの操作

「スタート すべてのプログラム アクセサリ 通信 リモートデスクトップ」を選択します。

注:リモートデスクトップ機能においてサーバー側(リモートパソコン側)のOSはWindowsXP Professionalである必要がありますが、クライアント側はWindows98、Me、2000、XP Homeでもできます。この場合WindowsXP ProfessionalのCDを挿入してクライアントソフトをセットしてください。詳細は下記のマイクロソフトのホームページをご覧ください。

<http://www.microsoft.com/japan/windowsxp/expertzone/columns/russel/02January28.asp>

(リモートパソコン側がWindowsXP Professional 以外の場合はNetmeetingを使用してください。Appendix 参照してください。)

この例ではコンピュータ名としては「ダイヤルアップ接続」で指定したIPアドレス「192.168.1.100」を設定し、「接続」をクリックします。(Page10 参照)

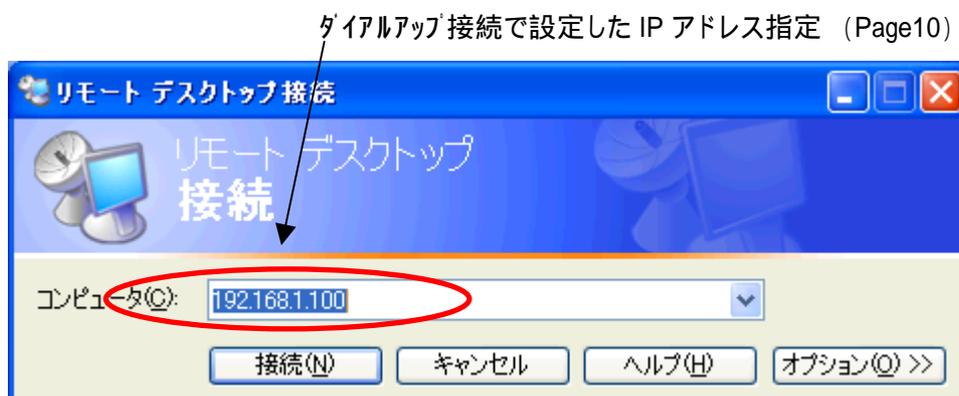


図 2-23 リモートデスクトップ接続

接続が成功すると図 2-24 のようにログオン画面が出てきます。リモートパソコンで有効なログオンユーザー名とパスワードを入力してください。



図 2-24 ログオン

正しく接続すると図 2-25 のようにリモートパソコンの画面がクライアントパソコンに表示されます。この表示ができれば設定は終了です。

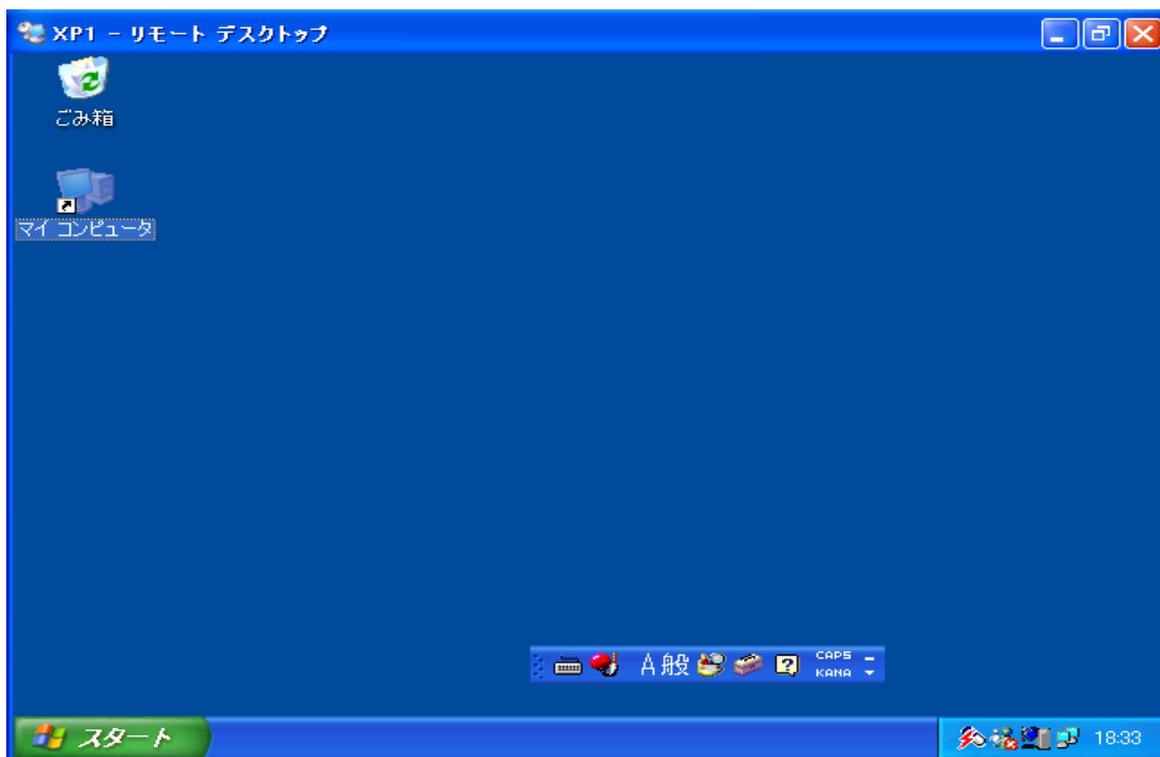


図 2-25 リモートデスクトップ

3. ソフトウェアのインストールと設定

インストール

メール DE バッカーをインストールします。プログラムをダウンロードしたら「MAILDEBACKER.msi」をクリックして実行します。



最初にインストールするフォルダーを選択し、「次へ」をクリックします。

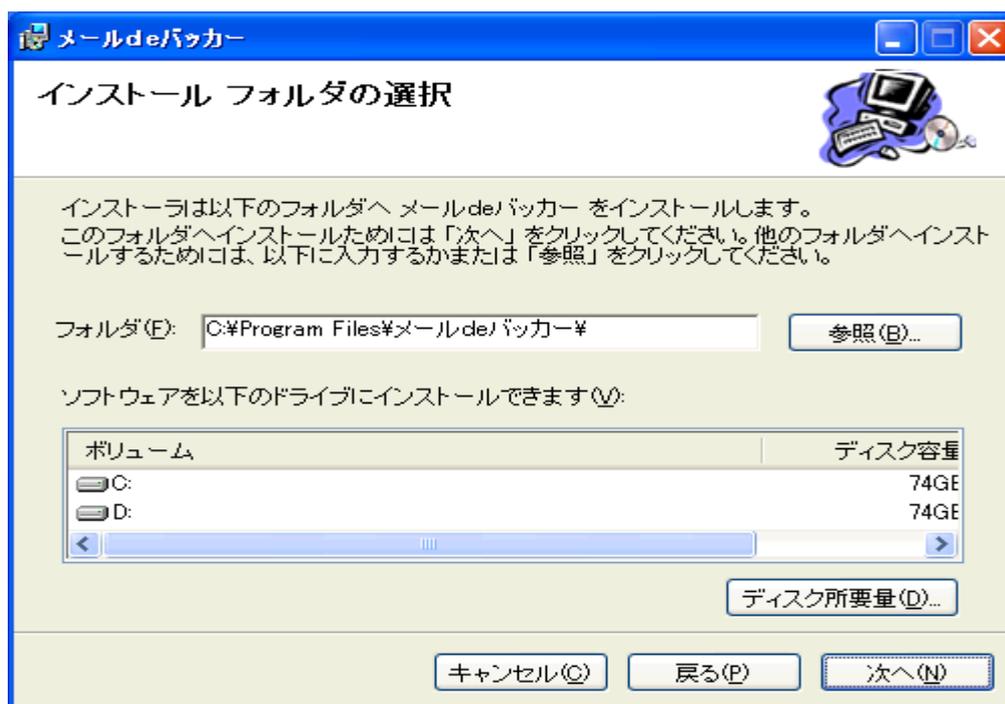


図 3-1 インストールフォルダ

インストールが完了したら「閉じる」をクリックしてインストールを終了します

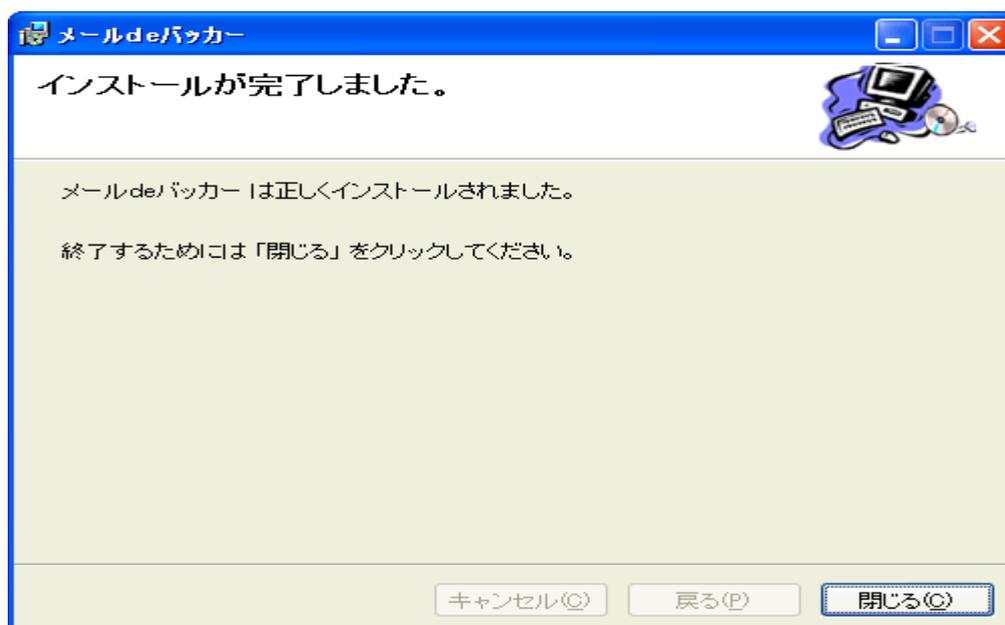


図 3-2 インストール完了

設定

「スタート すべてのプログラム MAILdeBacker」を選択し実行します。
実行すると以下のメイン画面が現れます。



図 3-3 メール DE バックャー メイン

まず最初にメールサーバーの設定を行います。「設定 オプション」を選択すると図 3-4 のウィンドウが表示されます。

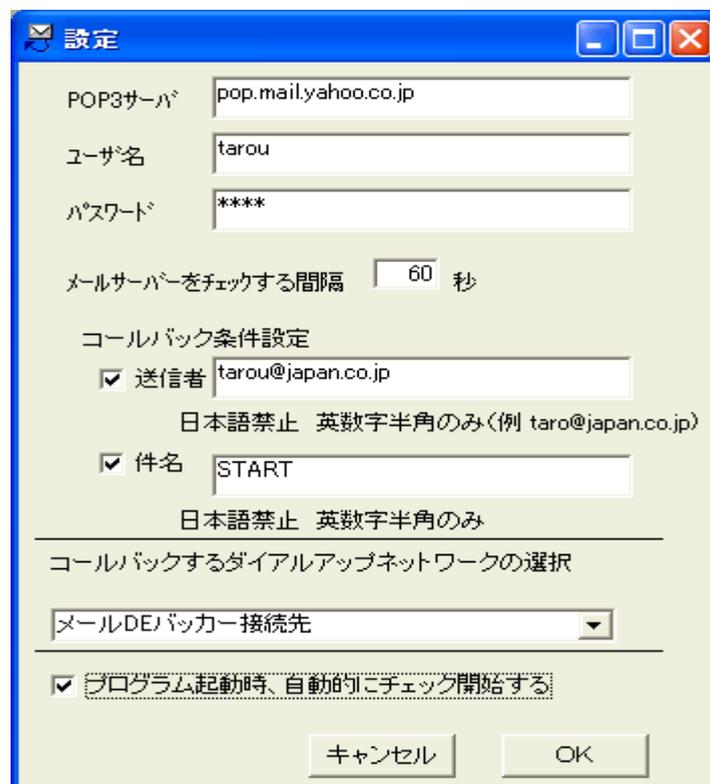


図 3-4 設定

表 3-1 は図 3-4 で設定を行わなければならない項目の一覧です。この表に従って設定を行ってください。

項目	内容	
POP3サーバ	メールサーバーのアドレスまたはIPアドレスを設定します。 図 3-4 では yahoo のメールサーバーを設定した場合を示しています。	
ユーザ名	サーバーにログインするときのアドレスを設定します。	
パスワード	サーバーにログインするときのパスワードを設定します。	
メールサーバーを チェックする間隔	メールサーバーをチェックする間隔です。短くするとコールバック開始メールを送ってから起動するまでの時間が短くなりますが、その分アクセスが増えます。	
コールバック 条件設定	送信者	チェックを入れたときにコールバック開始の条件となります。 ここで指定したアドレスからメールが来たときコールバック開始となります。メールアドレスの一部でも開始されます。例では「tarou」だけでもコールバック開始されます。使用できる文字は英数半角のみです。
	件名	チェックを入れたときにコールバック開始の条件となります。 ここで指定した件名のメールが来たときコールバック開始となります。件名の一部でも開始されます。例では「START」となっています。 なお送信者も設定されているときは両方の条件が成立したときにコールバックが開始されます。使用できる文字は英数半角のみです。
コールバックするダイ アルアップネットワー クの選択	コールバック開始メールを受信したときに、ダイヤルアップ開始するネットワークを設定します。プルダウンメニューで選択して下さい。	
プログラム起動時 自動的にチェック開 始する	このチェックを行っておくと、メイン画面で「開始」をクリックしなくても自動的にメールサーバーチェックを開始します。	

表 3-1 設定項目の内容

次にメールサーバーにアクセスが正常にできるか確認を行います。

「設定 メールサーバーチェック」を選択し、「受信」をクリックします。

正常に受信できれば上のテキストボックスには受信したメールの日時、送信者、件名が表示されます。下のテキストボックスには受信したメールの詳細が表示されます。

メールサーバーにメールがあるのに受信できない場合は、「設定」をもう一度確認するか、もしくはこのソフトがインストールされているパソコンで正常にメールを受信できるかを他のメールソフトを使用して確認してください。

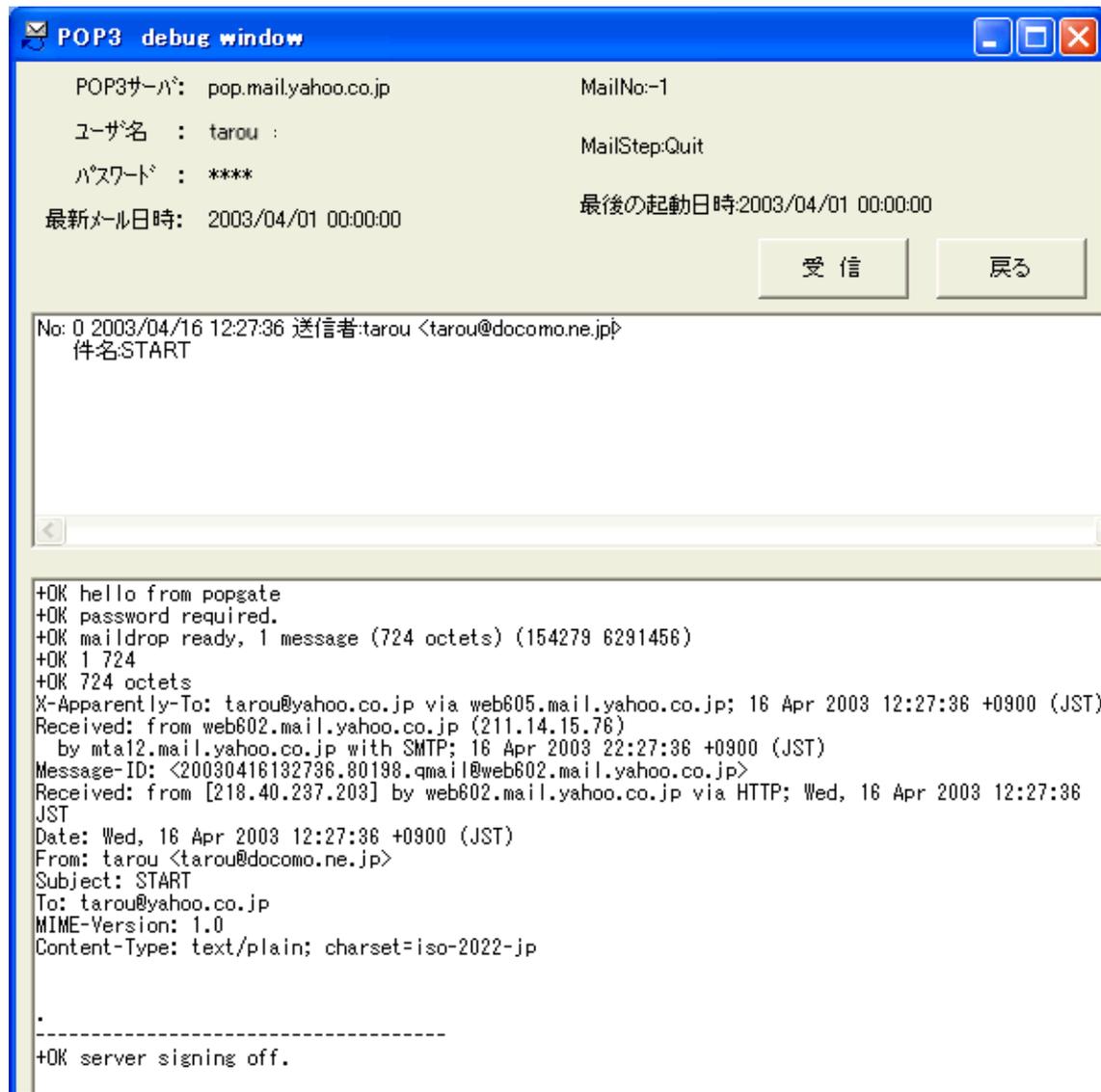


図 3-5 メールサーバーチェック

4. 実行

開始をクリックして、開始します。開始をクリックするとボタンが赤色になり、文字が「中止」になります。中止したい場合はこのボタンを再度クリックしてください。

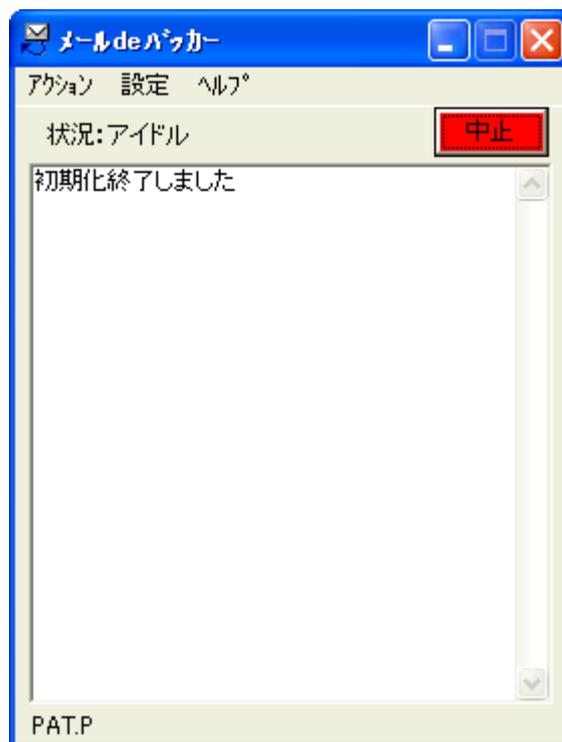


図 4-1 メール DE バッカー メイン

設定したメールサーバーにコールバック開始メールを送信すると、ダイヤルアップ接続を開始します。接続したら、後は設定のところでも用いたリモートデスクトップを用いて、リモートパソコンを操作してください。「オプション」をクリックすると、通信速度、使用できるリソース等を適宜設定できます。

ダイヤルアップ接続で設定した IP アドレス指定 (Page11)



図 4-2 リモートデスクトップ接続

接続が成功すると図 4-3 のようにログオン画面が出てきます。リモートパソコンで有効なログオンユーザー名とパスワードを入力してください。



図 4-3 ログオン

接続すると図 4-4 のようにリモートデスクトップ接続ウィンドウが開きます。

図 4-4 はリモートデスクトップでインターネットエクスプローラーを開いた例です。



図 4-4 リモートデスクトップ

以上で動作説明は終了です。このソフトを用いて他にもいろいろな使い方ができると思います。

APPENDIX A Netmeeting によるリモートデスクトップ接続

注意: Netmeeting でもリモートデスクトップ接続はできますが、WindowsXP のリモートデスクトップに比べると動作が遅い、通信スピードに合わせて最適化ができないなどのデメリットがあります。なるべく WindowsXP Professional のリモートデスクトップの使用をお勧めします。

インストール

- Netmeeting でリモートデスクトップを行うにはリモートパソコン、クライアントパソコン両方に Netmeeting がインストールされていなければなりません。
- WindowsXP では既にインストールされていますが、[通信]メニューにはありません。
したがって次の方法で実行します。
 1. タスクバーの [スタート] ボタンをクリックしてから、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。
 2. [名前] ボックスに、conf.exe と入力し、Enter キーを押します。
- WindowsXP 以外では最新の Netmeeting はマイクロソフトのホームページからダウンロードできます。
<http://www.microsoft.com/downloads/search.aspx?langid=13&displaylang=ja>

リモートパソコン側設定

リモートパソコンのパソコンでは Netmeeting でリモートデスクトップを実行できるように設定している必要があります。Netmeeting を起動したら「ツール リモートデスクトップ共有」を選択します。
初めてのときはリモートデスクトップ共有ウィザードが開始されます。次へをクリックします。

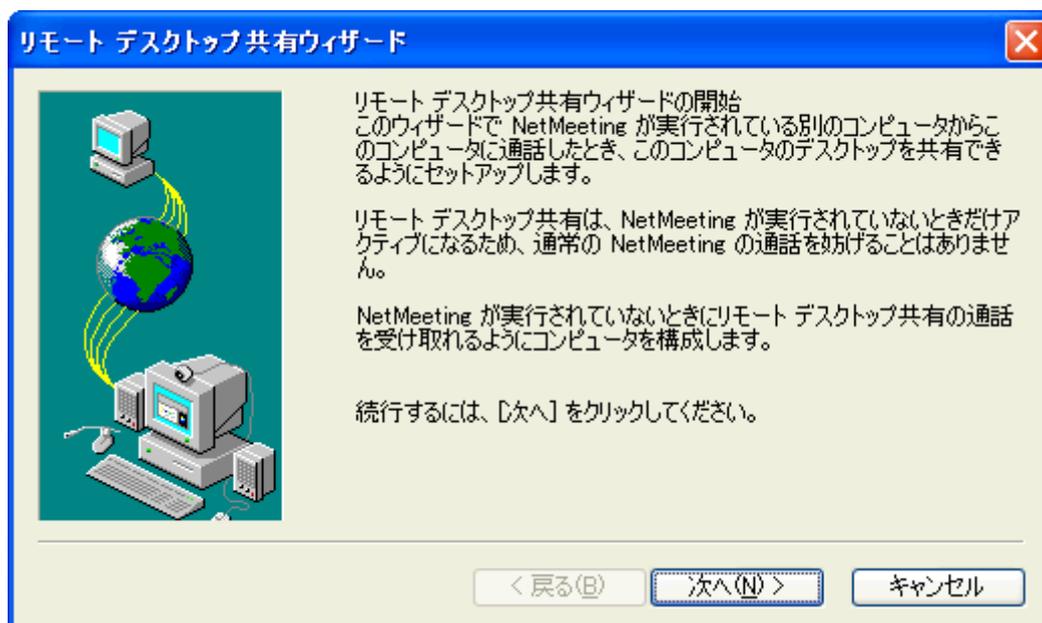


図 A-1 リモートデスクトップ共有ウィザード

次へをクリックします。

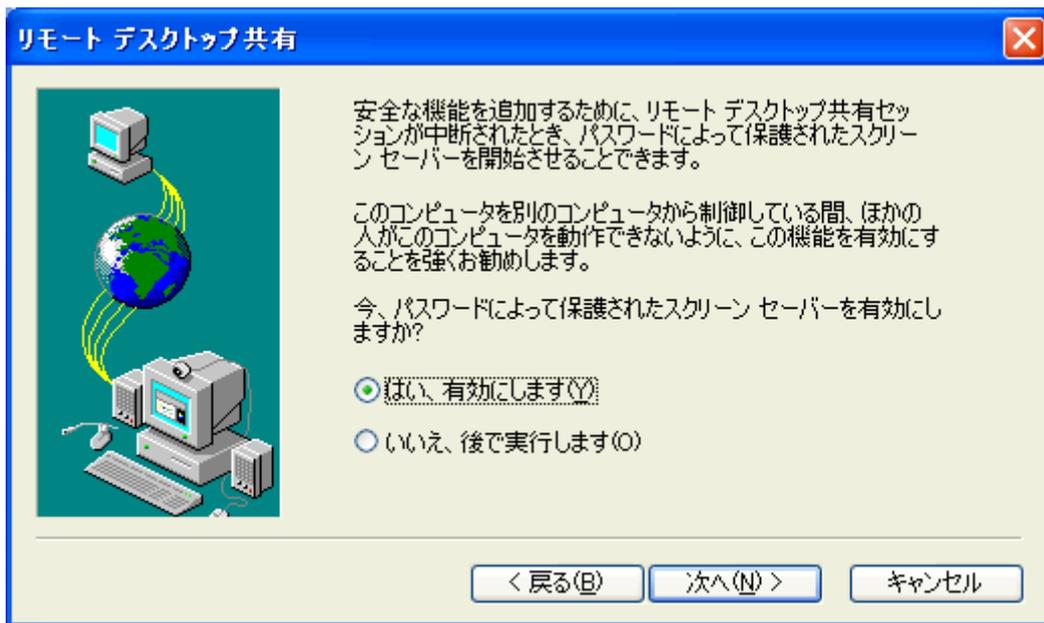


図 A-2 スクリーンセーバー有効設定

次にスクリーンセーバーを設定してから OK をクリックします。



図 A-3 スクリーンセーバー設定

セットアップを完了します。「完了」をクリックしてください。

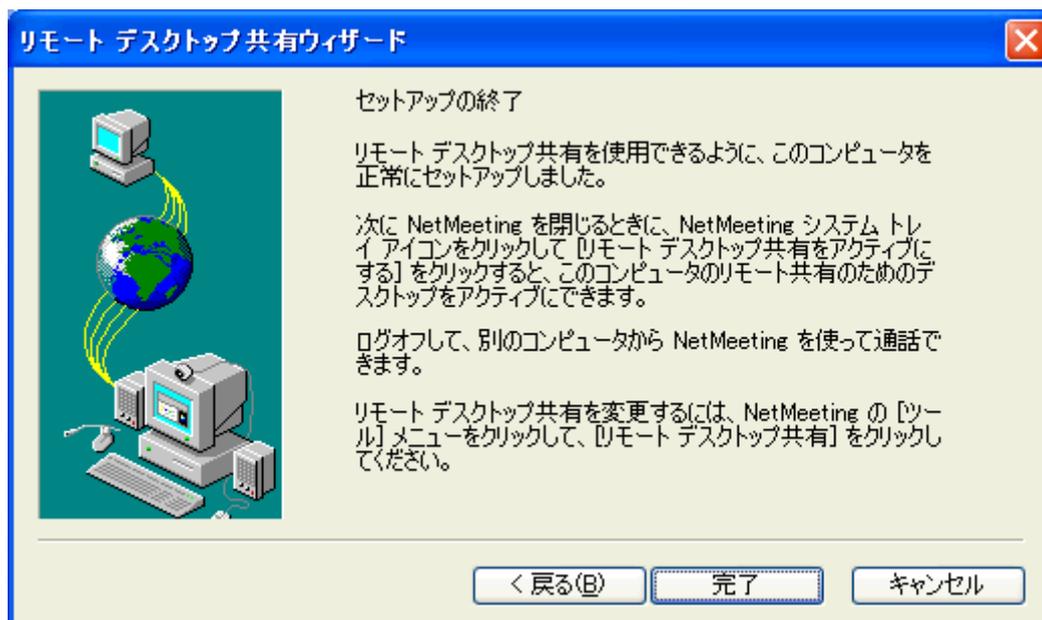


図 A-4 リモートデスクトップ共有ウィザード完了

次に Netmeeting のメイン画面で図 A-5 のように

「通話 終了してリモートデスクトップ共有をアクティブにする」をクリックして完了します。

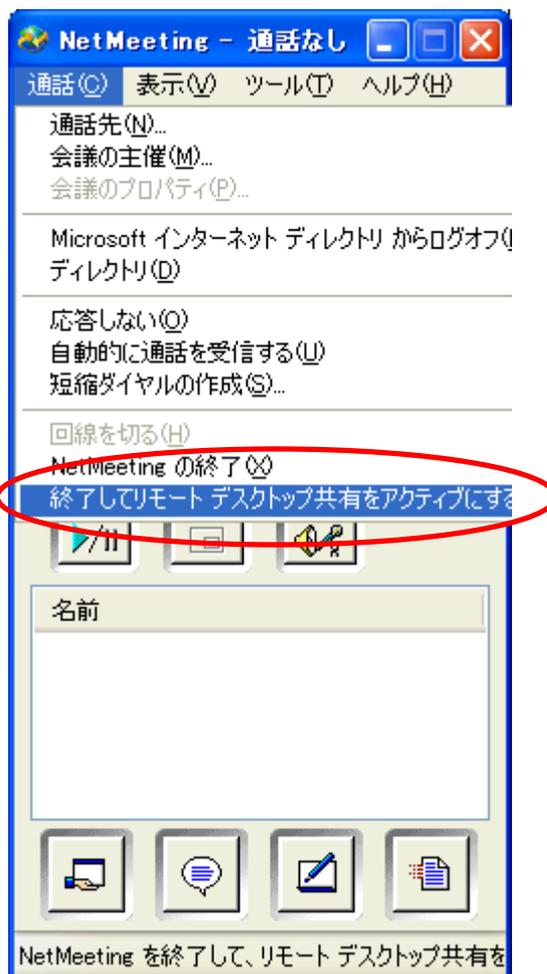


図 A-5 Netmeeting

リモートデスクトップ共有が可能になると

右下のタスクバーに「Remote Desktop Sharing」のアイコンが現れます。



図 A-6 Remote Desktop Sharing

接続

次にクライアントパソコンから Netmeeting を用いてリモートデスクトップ共有を行います。

すでにメール DE バッカーによりクライアントパソコンとリモートパソコンのデータ通信は確立されたものとします。

Netmeeting を起動したら「ツール オプション セキュリティ」で

「すべての送信通話をセキュリティで保護します」をチェックします。

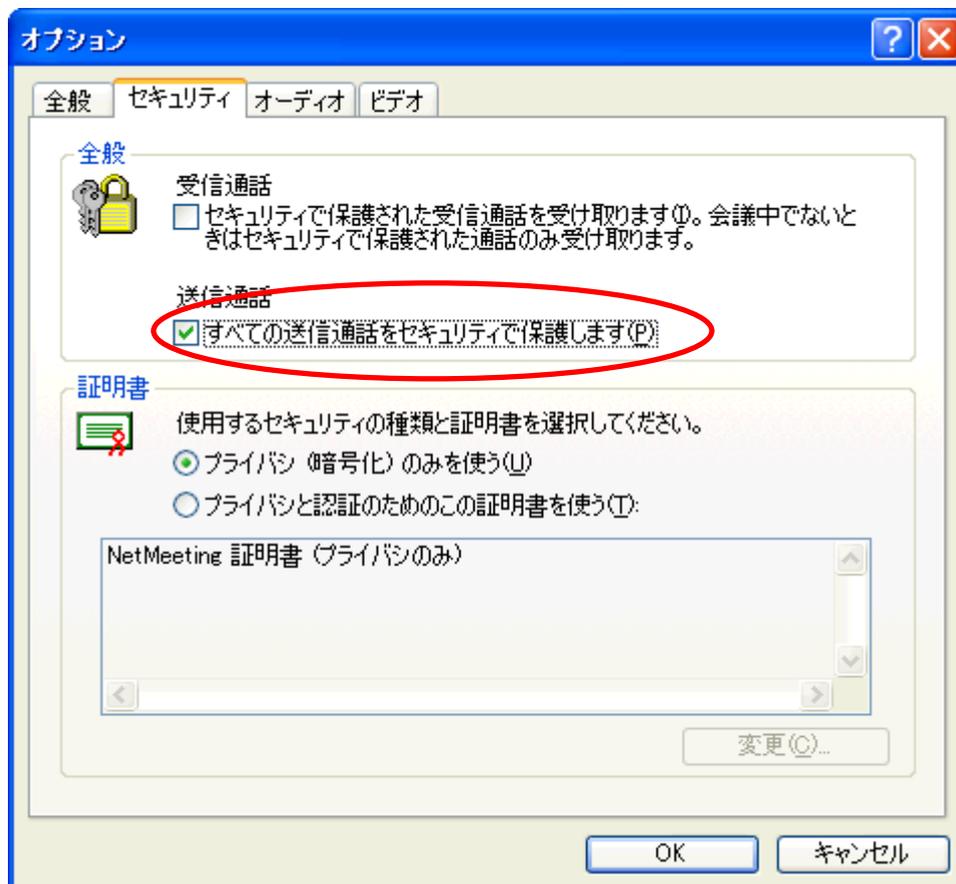


図 A-7 セキュリティ設定

次に Netmeeting のメインメニューのアドレス欄に IP アドレスを設定してからリターンを押すか通話ボタンを押します。この IP アドレスはリモートパソコンのダイヤルアップ接続で設定した IP アドレスです。(Page 11 参照)



図 A-8 IP アドレス指定

接続するとログインの画面が出てきます。リモートパソコンのログインユーザー名とパスワードを入力してください。

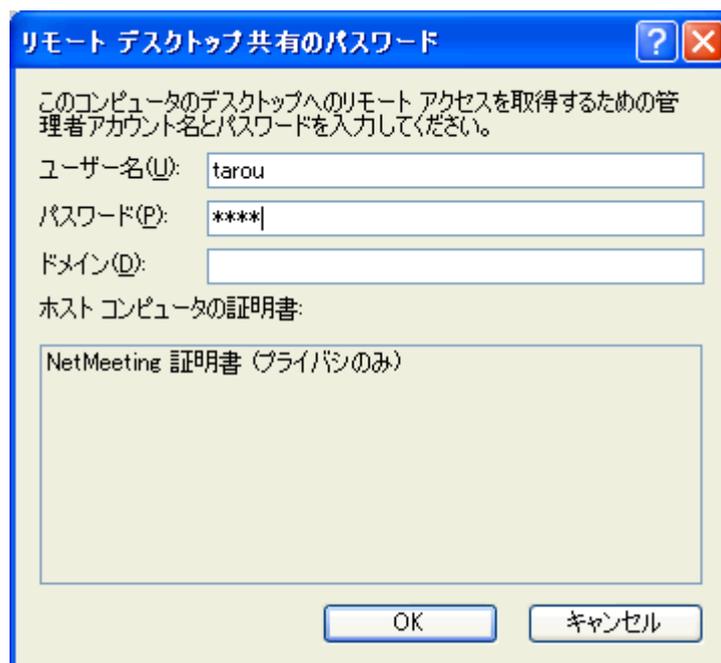


図 A-9 リモートデスクトップ共有のユーザー名とパスワード

ログインすると、会議のプロパティウインドウが表示されます。



図 A-10 会議のプロパティ

同時にリモートデスクトップ共有のウインドウが開かれます。



図 A-11 Netmeeting によるリモートデスクトップ共有ウインドウ

APPENDIX B その他共有ソフトについて

その他の共有ソフトについての設定方法は順次解説を追加して行きます。
現在 SoftEther などによる共有方法、インターネット接続方法を確認していますが
これらは順次更新しますので、下記アドレスのメール DE バッカー のページで
ご確認ください。

最後に

ご質問について

ご質問はメールのみにてお受けいたします。

support@kyuseal.com

なお場合によってはすぐにご回答できない場合もありますのでご了承ください。

本ソフトウェアの方式については特許出願中です。